



平成三年に開校の京都国際建築技術専門学校と、平成七年に開校の京都伝統工芸専門学校が、今年四月からそれぞれ「**京都建築大学校**」、「**京都伝統工芸大学校**」と名称変更され、より充実した体制で優れた人材育成に取り組みられることになりました。

旧園部町では、昭和六十二年から「国際学園都市計画」を策定し、京都国際建築技術専門学校や京都伝統工芸専門学校、京都医療技術短期大学（今春から京都医療科学大学）、佛教大学園部キャンパスの開校、CATVを活用したまちづくりを展開してきました。

京都伝統工芸専門学校は旧園部町、京都府、KASD奨学会（京都国際建築技術専門学校の関連団体）、伝統工芸団体などが出資している「財団法人京都伝統工芸産業支援センター」（新谷秀一理事長）により設立され、現在は京都国際建築技術専門学校とともに、学校法人「二本松学院」が運営されています。

この「大学校」への名称変更により、高等教育機関として技術教育環境の拡充が行われます。南丹市でも多くの若者が集う地域資源として、各教育機関と連携し地域の活性

化を図っていきます。

■社会で活躍できる

人材の育成を進める

—**京都建築大学校**—

平成三年に開校し、今年で開校十七年目となる京都国際建築技術専門学校では、四月から新しく「**京都建築大学校**」と校名変更されます。同校では、「企業が求める人



▲陶芸品製作の実習の様子

材の育成」を理念とし、在学生中に二級建築士やインテリアプランナーの資格が取得できる教育システムをとられており、全国各地から現在二千人以上の学生が集まっています。また平成十四年からは放送大学との連携協力により、大学の卒業資格を取得できるコースを設置されました。これらの教育システムにより、これまで約八千人の方が卒業され、優れた人材を多く輩出しています。こうした状況をふまえ、今春より校名を新たに「新しい大学教育のカタチ」として、南丹市のまちづくりにも大きな役割を担っていかれます。



▲製図実習の様子